平成１９年度　薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
２０	医薬品安全性学・薬剤疫学（中毒部門）	No.1 / ３枚		

問１　重篤な副作用に関する次の記述（１～５）の空欄［ａ～ｌ］に該当する語句を、解答欄に記入しなさい。（１２点）

（１）　［　a　］は、ドロキシドパなどの急な投与中止や投与量の変更に伴い発症することがあり、高熱や、意識障害、筋肉の硬直などが見られる。治療には［　b　］の投与を行う。

（２）　メルカプトプリンはアロプリノールと併用する場合、キサンチンオキシダーゼによる［　c　］が阻害されるため、［　d　］する必要がある。

（３）　［　e　］は、キノホルムの大量長期服用により1950～1970年代にかけて、日本に発生した［　f　］事件の１つで、腹痛、下痢などが先行し、神経症状が発症する。舌や尿、便が緑色となるのはキノホルムが併用された［　g　］剤とキレートを形成したためである。

（４）　横紋筋融解症は［　h　］の融解、壊死により筋細胞成分が血液中に流出する病態であり、検査所見として［　i　］の上昇がみられ、尿が赤くなることがあるが、これは尿中の［　j　］濃度が上昇したためである。

（５）　［　k　］は、主に*N*-メチルテトラゾールチオメチル側鎖を持つセファロスポリン系抗生物質の服用中または服用一週間後までに見られ、アルコール服用時にアルデヒドデヒドロゲナーゼの阻害による［　l　］の蓄積による症状が現れる。

解答欄

a	b	c	d
e	**f**	**g**	**h**
i	**j**	**k**	**l**

採点	
	［　　］

平成１９年度　薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
２０	医薬品安全性学・薬剤疫学（中毒部門）	No.2 / ３枚		

問２　急性薬毒物中毒とその治療や診断に関する次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×を（　　）内に記入しなさい。（１０点）

（　　）　ジメルカプロールは、ヒ素や水銀中毒において、毒性の低いキレート複合体を形成して、重金属の尿中への排泄を促すキレート剤である。

（　　）　エタノールはアルコールデヒドロゲナーゼに対する親和性が高いため、メタノール中毒の際、毒性代謝物への代謝を競合的に拮抗する。

（　　）　鉛中毒において、エデト酸カルシウム二ナトリウムは水溶性の鉛錯塩を形成し、体外への排泄を促進する。

（　　）　アセチルシステインは、アセトアミノフェン中毒の他に、サリチル酸などの解熱鎮痛剤中毒の解毒治療にも用いられる。

（　　）　アセトアミノフェン中毒では、CYP2E1 を介して生成される毒性代謝物が蓄積し、細胞蛋白の高分子物質と共有結合することにより、肝毒性を呈する。

（　　）　フルマゼニルは、中枢性ベンゾジアゼピン受容体に高い親和性を有し、ベンゾジアゼピン系薬物の急性中毒の特異的拮抗薬として用いられる。

（　　）　炭酸リチウムを過量摂取した患者に対して、吸収されていない消化管内の炭酸リチウムを除去するために、活性炭吸着療法は有効である。

（　　）　催吐剤のトコンシロップは、中枢神経症状を引き起こすおそれがあるので、タバコの誤食（誤飲）患者には禁忌である。

（　　）　有機リン系殺虫剤はニトロベンジルピリジン法により紫色を呈するため、カーバメート系農薬と判別することができる。

（　　）　除草剤のパラコートは、その血中濃度を測定することより、摂取経過時間に従って血中濃度をプロットしたノモグラムを指標として、患者予後を判定することができる。

採点	

［　　］

平成１９年度　薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
２０	医薬品安全性学・薬剤疫学（中毒部門）	No. 3 ／ ３枚		

問３　下の表は、ある薬物を服用した女性患者が奇形児を出産するリスクを服用しなかった患者と比較した調査研究結果である。服用群の相対危険度を計算し、服用群のリスクを評価しなさい。なお、計算式も記入しなさい。（４点）

	服用群 n=640	非服用群 n=200
奇形　あり	40	5
なし	420	175
不明	180	20

計算式：

問４　アセトアミノフェン中毒に対する解毒薬（*N*- アセチルシステイン）治療について、その作用機序と使い方を７行以内に記述しなさい。（４点）

採点	

[　　]